

# 上伊那総合技術新校施設整備事業

## 基本計画策定支援業務委託プロポーザル 審査講評

### 1 審査概要

本事業のプロポーザルでは、各分野を代表する6名の審査委員（以下「委員」という。）による審査委員会により、実施要領を策定の上、一次審査及び二次審査を行い、慎重かつ厳正に審査した。

### 2 選定結果

審査委員会が選定した最適候補者等は以下のとおりである。

最適候補者	遠藤克彦建築研究所・waiwai 共同企業体 代表構成員 (株)遠藤克彦建築研究所 構成員 waiwai 合同会社
候補者（次点）	株式会社千葉学建築計画事務所
準候補者（次々点）	該当なし

### 3 審査経過

#### (1) 第1回審査委員会

日程： 令和7年7月11日（金）  
場所： オンライン会議  
内容： 委員長の選出、実施要領・審査方法等の協議

#### (2) 第2回審査委員会

日程： 令和7年7月23日（水）  
場所： オンライン会議  
内容： 実施要領・審査方法等の協議

### (3) 第3回審査委員会（一次審査）

日程： 令和7年10月22日（水）

場所： 都道府県会館（東京都千代田区）

概要： 最初に、提案書等の提出のあった15者について、参加資格を有すること及び提出書類について実施要領に規定する記載要領に従って作成されていることなど失格基準に抵触していないこと、更には委員への事前説明その他接触などが多く留意事項における禁止事項に抵触していないことを確認した。

次に、審査の第一段階として提案書等をもとに各委員が事前に最大7票ずつ「予備投票」を行った結果を共有の上、投票数の少ない者から順番に各委員が提案書等に対する専門的知見からの講評を交えた意見交換を行った。得票数に拘らずに優れた提案能力を持つと思われるものを選ぶべく、委員間の評価軸の多様性を尊重し、真摯な議論が行い、二次審査参加者2者を選定した。【表1】

第二段階として、「予備投票」の結果と議論を踏まえ、投票対象者を5者選定し、各委員が2票ずつ投票し、二次審査参加者1者を選定した。【表2】

最終段階として、第二段階における投票の結果から、投票対象者を5者選定し、各委員が1票ずつ投票し、二次審査参加者1者を選定した。【表3】

【表1】一次審査 予備投票結果

投票数	該当者数	審査 No.
6票	1者	14○
5票	2者	4、12○
4票	1者	9
3票	3者	3、6、11
2票	3者	2、8、10
1票	4者	1、5、7、13
0票	1者	15
計	15者	

注1) 審査No.は提出書類受付順　注2) ○二次審査参加選定者

【表2】一次審査 第1回投票結果

投票数	該当者数	審査 No.
6票	—	
5票	1者	6○
4票	—	
3票	1者	9
2票	2者	3、11
1票	—	
0票	1者	12
計	5者	

【表3】一次審査 第2回投票結果

投票数	該当者数	審査 No.
6票	一	
5票	一	
4票	1者	9〇
3票	一	
2票	一	
1票	2者	3、11
0票		
計	3者	

(4) 第4回審査委員会（二次審査）

日程： 令和7年12月7日（日）

場所： 上伊那農業高等学校（上伊那郡南箕輪村）

概要： 実施体制及び提案書について、1者当たり 15 分の公開プレゼンテーションを4者順番に行った（順番は、当日の朝、参加者によるくじ引きで決定。）。続けて4者一斉におおよそ 85 分の公開ヒアリングを行った。

ヒアリング終了後、提案書並びにプレゼンテーション及びヒアリングなどを踏まえ、非公開にて審議を行った。各提案に対する評価点と課題点について各委員の所見を開示しながら、本事業に求められる価値の実現可能性を多面的な角度から議論を尽くし、二度の投票を援用しながら丁寧な合意形成を図った上で、最適候補者等の選定を行った。厳正な審議の結果、審査委員会の総意として、最適候補者に遠藤克彦建築研究所・waiwai 共同企業体を選定した。続いて、候補者（次点）に株式会社千葉学建築計画事務所を選定し、準候補者（次々点）は該当なしとした。【表4、5】

【表4】二次審査 第1回投票結果（各委員1票）

参加者名（発表順）		投票数
1	遠藤克彦建築研究所・waiwai 共同企業体	2
2	株式会社千葉学建築計画事務所	2
3	わたしもそう共同企業体	2
4	シムサ・キッタン・アンド・ウエスト設計共同企業体	0

【表5】二次審査 第2回投票結果（各委員2票）

参加者名（発表順）		投票数
1	遠藤克彦建築研究所・waiwai 共同企業体	6
2	株式会社千葉学建築計画事務所	3
3	わたしもそう共同企業体	3

## 4 講評

### (1) 全体講評

本事業は、辰野高校商業科、箕輪進修高校工業科、上伊那農業高校、駒ヶ根工業高校という地域の産業教育を長年担ってきた高校が、NSD が掲げる共学共創の理念のもとに、「伝統的かつ先進的な多面的な学びが地域の人々とのつながりや関わり合いを通じて、地域をベースとして多方面で活躍できる人材を創出する、地域の拠点としての総合技術新校」となり、「生徒自らの探究心をはぐくみ、一人一人が夢中で学びあえる学習空間」となるように、学びと空間の環境整備を進めるものである。

本年 8 月 20 日に公示、10 月 2 日に一次審査書類の提出と、提案に向き合う時間が短かったにもかかわらず、15 者からいざれも高水準の提案があり、10 月 22 日の一次審査では、厳しい議論を経て、4 者に絞込んだ。これまでの NSD 施設整備プロポーザルと比べても最大規模となる本事業に、多大なる時間と労力をかけて、応募の労を取って頂いたすべての皆様に感謝の意を表したい。

12 月 7 日の二次審査における 4 者の提案は、NSD 事業の精神を反映した学びの場としても完成度の高い提案であることはもちろん、敷地のある伊那谷の地勢を丁寧に読み解いた提案であった。その中からひとつだけを選ぶ審議は非常に難しいものであったが、審査委員の間で厳しい議論を積み重ね、総意として結論に至った。

農業、工業、商業、養護学校分教室がそれぞれの専門性を大切にしながら融合のメリットを共有できる創造的な教育環境となるかどうかという点はもちろんのこと、学校や地域と一緒にになってどのように学びの空間を実現していくか、また厳しいコスト管理を経ながら限られた期間の中で計画を練り上げなくてはならないという非常に難しい課題に対し、多大な労力を費やし、真摯に取り組んでいただいた皆様に、深く感謝申し上げる。

最適候補者には、その提案の妥当性だけではなく、学校や地域と真摯な対応が期待できることから選定されたが、その期待に応えて全力を尽くして頂きたい。学校や地域など学校づくりに関係するすべての人が、自分たちが携わったからこそ素晴らしい学校ができたと胸をはって言える学校づくりとなるよう、丁寧に本事業に取り組まれることを期待している。

### (2) 個別講評（二次審査対象者）

#### 遠藤克彦建築研究所・waiwai 共同企業体《最適候補者》

コア・フォレストと名付けられた中庭を中心に各クラスターが風車状に連関する平面は、教育的な観点からも様々に考慮されており、審査委員から高い評価を受けた。また、将来的な可変性について評価する声もあった。その一方で、これから直面するであろうコスト対策に対する課題が多いという懸念、一期工事で建設する校舎と二期工事で建設する校舎がかなり長い面で接していることから、接続の工法や工事区分、工事期間中の防音対策などについて課題が多いという懸念が提示された。

こういった課題を乗り越えることが期待できるとともに、全体的な完成度の高さから、最適候補者として選定した。

#### 株式会社千葉学建築計画事務所《候補者（次点）》

複数の回廊が周辺にある様々な資源を包含しながら全体を構成する、敷地の特性を活かした魅力的な提案であった。仮設校舎を極力建てないことや構成をシンプルにしてローコストを実現しようとするなどの点も評価された。その一方で、FLA 周りについての使われ方のイメージの解像度が十分でないこと、学年が進むごとにゾーンが変わるアイデアは魅力的な一方で、その具現化にはハードルが高いことなどが指摘され、全体評価で最適候補者を上回ることは出来なかった。

(以下、発表順)

#### わたしもそう共同企業体

メインアプローチを南面の県道に付け替え、既存校舎を避けて新校舎を配置することで建て替え時の課題に応えるとともに、周辺環境を活かした新しい構成の教育環境を実現しようとする意欲的な提案であった。地域連携ゾーンのあり方も現実的であると受け取られた。その一方で、外観イメージが分かりにくい、正門の位置を変えることによる渋滞や事故への懸念、一次審査の時に見られた段差を活用して外部と連関するおおらかさが失われている、諸室同士の音の管理が難しいのではという課題も出された。

#### シムサ・キッタン・アンド・ウエスト設計共同企業体

南西から北東に雁行して連続するプロムナードを中心にそれぞれに外部空間と連関するクラスターが連続する魅力的な提案であった。その一方で、かなり大きな空間となる全校 FLA の使われ方の解像度が必ずしも十分ではないこと、生徒の日常空間である廊下周りは GFLA などの工夫がされてはいるが使われ方がイメージしにくいこと、3期・6年という建て替え計画の妥当性、平屋に拘ったために建築面積が大きくなりコスト的な難しさを抱えているのではないかなどの懸念が示された。

## 5 プロポーザル概要

### (1) 経過

令和7年7月11日	第1回審査委員会	
令和7年7月23日	第2回審査委員会	
令和7年8月20日	公告	
令和7年8月31日	現地説明会	
令和7年9月12日	参加表明書の提出期限	15者提出
令和7年10月2日	一次審査書類の提出期限	15者提出
令和7年10月22日	第3回審査委員会 (一次審査)	二次審査参加者の選定(4者)
令和7年10月29日	一次審査結果通知	
令和7年11月27日	二次審査書類の提出期限	4者提出
令和7年12月7日	第4回審査委員会 (二次審査)	公開プレゼンテーション 公開ヒアリング 最適候補者等の選定

## (2) 審査委員会等構成

審査委員会（分野別・五十音順・敬称略）

区分	氏名	所属等	分野
委員長	赤松 佳珠子	法政大学・教授 (株)シーラカンスアンドアソシエイツ・代表取締役	建築
委員	寺内 美紀子	信州大学・教授	
委員	西沢 大良	芝浦工業大学・教授 (株)西沢大良建築設計事務所・代表取締役	
委員	垣野 義典	東京理科大学・教授	
委員	高橋 純	東京学芸大学・教授	教育
委員	武者 忠彦	立教大学・教授	地域

アドバイザー

氏名	所属等	分野
小野田 泰明	東北大学大学院・教授	都市・建築学